

令和7年度 第3回聖籠町補助金等評価調査委員会 議事要旨

日時：令和7年11月27日（木）午後3時00分から午後4時50分まで

場所：聖籠町役場3階 第2会議室

出席委員：穴戸委員長、佐野副委員長、島村委員、丹後委員

事務局〔総合政策課〕小林課長、高橋主幹、小林主事

関係部署〔産業観光課〕小野課長、大沼課長補佐、加藤主事、小林主事

次第

1 開会

2 議事

(1) 補助金等見直し計画の進捗状況について（7事業）

（関係部署へのヒアリング調査）

(2) 前回ヒアリングまでの意見集約について（14事業）

3 事務連絡

4 閉会

要旨

議事（1）補助金等見直し計画の進捗状況について（7事業）

No.15 船だまり利用者協議会振興事業補助金（産業観光課）

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。最初に団体の決算状況はしっかり確認しているのか。次に積算根拠は漁協等との調整ではなく、明確にすべき。次に自立を促す補助制度を目指す、自立できるのか読めない。補助金から負担金に変更したが指摘への対応が見えない、アンケートを行い必要であれば増額すべきだが現状では事業内容が全く把握できない、との意見である。

私も委員に同感である。令和6年度から負担金に変えたが、何に対する負担なのか。

町はどういう状態を作りたいのか、団体の活動がそれに資することを明確にすべき。

産業観光課長 昭和50年代、木材埠頭にプレジャーボートが百数十隻停まっていた、大型船の出入りに支障を来していたため、網代浜漁港にそのプレジャーボートの係留施設を作って、移動させる案が県から出された。しかし、港湾管理者である県費だけでは難しく、国からも補助金をという中で、地元が要望している姿が見えないと国に要望できないことから、町も平成10年頃に網代浜漁港を占用する漁協の了解も含めて、町と漁協、プレジャーボートの3者でこの船だまり利用者協議会を組織して、施設建設に関して地元としても要望し、国の予算が付いて施設整備に繋がった経緯がある。

また、その後の管理や係留施設の利用料徴収、漁協との関係も必要となるため、県と町、船だまり利用者協議会の3者で新潟港東港区網代浜地区プレジャーボート施設に関する協定を結び、町は負担金として光熱水費や維持管理費などを支出している。そういう経緯の中で、自立というよりも町も加わって運営するということで、町が9万5千

円、漁協が9万5千円、プレジャーボートの会費収入1隻約1万2千円の約140隻の収入で施設の維持管理費を賄っている。

委員長 本来、県がやるべき仕事を町に押し付けているという印象を受けた。

しかし、県がやるべきことではあるが、町がお金を出す以上は、船だまりをどうすべきか、何を目指すべきか考えを持つ必要があるとともに、協議会の活動がその実現に向けて資するものである、だから公金を出すという整理は必要である。

産業観光課長 この取組で当初の目的だった大型船往来の支障は解消されたが、今後も東港の発展、有効活用において現状を維持する必要がある。

そういう意味で協議会は必要であり、今後、港湾整備を要望する際にも、協議会が有効に機能するものと考えている。

委員長 そのために町が公金を出すという整理だと思うが、そもそも論が県の仕事なので、勿論、町が受ける便益の程度で負担することはやぶさかではないが、県が行う管理の他にプラスアルファの理屈が必要である。意見として申し上げるので検討してもらいたい。

No.16 聖籠町商工会運営事業補助金

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。方向性は現状のままでいいが、町民への情報公開について、商工会の事業として周知されているが、町から補助金が出ていることは認知度が低い、との意見である。

こちらの補助金は商工会の運営費だが、これも先ほどと同じで、商工会の具体的な取組、運営によって、聖籠町が目指す商工業の活性化に繋がるという理屈立てだと思う。

委員 この補助金により、町のために資する活動が行われている。そういう納得が必要である。

産業観光課長 配付資料の目的実現のための具体的内容のところが、ご指摘のように町の目的が中小の商工業者の発展に繋げるためというところで明確な書きぶりに直したい。

なお、町商工会の決算資料等では4千6百万円弱位の年間の事業規模になっていて、そのうち2千5百万円位は県の補助金、町からは7百万円であり、補助金が無いと現状成り立たない組織という側面もある。その町補助金の使い道については、実績報告を確認している。

委員長 目的の他に効果。どう繋がっていったのかも必要。

産業観光課長 効果指標として倒産件数を考えているが、他にも適切なものがあるか検討していきたい。

No.17 聖籠町暮らし応援事業補助金

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。方向性は現状のままでいいが、この事業と生活環境課所管の管理不全空き家除去費補助金をうまく組み合わせて空き家対策はできないのか、という提案である。

産業観光課長 除却すると補助金を貰えて、そこに新築となると暮らし応援補助金も貰え

る。お金は掛かるが除却して建て直した方が補助金は多く貰えることになる。

委員長 そのことをPRしているのか。目的が違う補助金だが使うのは町民であり、これから町民になろうとしている人で、そういう人たちに空き家を壊して、建てた方がお得だという売り込みもできるのでは。

産業観光課長 イメージとしては、そのような形の需要は町民であって、外から来た場合は宅地造成などに結構なお金が掛かる。

総合政策課長 除却に100%補助金が出るわけではないので、最初からこの新築のお金だけ貰った方が負担は少ない。

産業観光課長 例えば、町民の方で親御さんと離れてアパート住まいだったが、親御さんの死亡などで古い空き家が残った場合に、自分はアパート出て、その古い家を壊してそこに家を建てて住もうというパターンが考えられる。

委員長 役場から見れば、課が違う、目的が違う、別の補助金だとなるが、うまく組み合わせて空き家対策が出来ないか。町民向けのアピールの仕方があると思うが提案する。

産業観光課長 場合によっては移住促進にも繋がるので、意見を踏まえてアピールの仕方を考えていきたい。

No.18 聖籠町観光協会運営事業補助金

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。聖籠町の観光は認知度が低いのでイベントをさらに盛り上げる工夫が必要、という意見である。

委員 補助金を交付するなら中身の補助金の額、使途、効果は気になる。

産業観光課長 使途の一番大きなものは観光協会の専属職員1名の人件費である。イベントでは、弁天湯観桜会と秋祭りの事業費が計上されている。

効果としては、イベントの入込客数が一番分かりやすいと思っている。ただ、予算削減によりイベントの見直しをせざるを得ない状況だが、町民の皆さんにも楽しんでいただきたい。そのバランスを見ながら工夫している。

委員長 観光事業なので、指標は入込客数に勝るものはない。その入込客が年々増えているが、そのことを積極的にホームページで公表し、町民に各種イベントの状況を示していくことが重要である。それにより町自らもより積極的な取組へと進んでいくものと思う。

産業観光課長 現在も公表しているが、そこを探す必要があって分かりにくい。本来であれば、観光協会のページがあって、すべての事業を示せばいいが現実的ではないので、示し方を考えていきたい。

委員長 全部でいい。観光協会のパフォーマンスで、こんなにお客さんが来てますっていうことを示すべき。税金で行っている仕事であり、報告先は町民になるはずである。

No.19 さくらんぼまつり実施事業補助金

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。一部農家から、さくらんぼだけ優遇されているとの声がある。将来的に観光協会運営事業補助金に組み込めないか、という意見である。

私も同様の意見で、何故、観光協会の全部でなくて、さくらんぼまつり実施補助金は独立しているのか。別枠にする理由があったのか。

産業観光課長 聖籠町は果樹の里として対外的にもPRしており、葡萄もあるが、葡萄は1ヶ所に観光農園として纏まっていて時期になると、お客さんを待っている形となっている。

一方、さくらんぼは県内市町村の中でも生産量トップではあるが、農場が点在していて販わいやPRが難しい。そのため聖籠町のさくらんぼは美味しいということのPR効果を高めるために場所を決めてやった方が効率的だと桜桃出荷組合が考えて補助金を申請しているものと感じている。ただ、葡萄の組織からも話があれば町として考える必要はある。

委員長 生産量トップで、町としてさくらんぼを掲げて果樹の里、聖籠を売り出す。これは1つのストーリーとなる。

ただ、農家にとっては、何故さくらんぼばかり肩入れするんだという声はあると思う。そういうときには、今言った理屈を丁寧に説明することが必要である。

No.20 聖籠夏祭り実行委員会補助金

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。聖籠町を一番PRできるイベントであるので、増額して盛り上げられたい、という意見である。

事業費、入込客ともに令和5年、6年と増加している。このため委員から増額してやるべきとの意見だと思う。

産業観光課長 令和6年の増額は、波の影響で花火の打ち上げが2回延期されたため、都度の準備に掛かる経費がかさんだためである。

しかし、花火は中止だったが、キッチンカーなどの出店は行われ、大勢の方が訪れ、楽しんでいて、花火以外のところでもそこに行けば美味しいものを食べたり、子供たちも楽しめるとか、そういう認知度は上がったと感じた。

委員 夏祭り実行委員会の構成は。

産業観光課長 商工会、議会議員、警察、消防、サッカーカレッジの学生など様々な立場の方で構成している。

No.21 聖籠町サーフィン大会実行委員会補助金

～ヒアリング～

委員長 欠席委員から意見が出されている。財政計画の策定、積算根拠の明確化、客観的データに基づく効果測定、これらにすべてバツを付けた上でクラウドファンディングで資金を集めると言ったが集まらない理由。積算根拠は作成過程ではなく根拠を知りたい。300人程度の来場では効果薄い。何故、スポーツイベントに産業観光が補助するのか。金額と事業規模が合っていない。大会名に町長杯は時代錯誤である。町内スポーツ関係者から不満の声が多数上がっている。5年などの区切りを決め、クラウドファンディング等で運営費を賄うことができれば廃止すべき。事業の方向性は廃止、という厳しい意見である。

委員 何故、サーフィンなのか説明がないと反対意見も出てくると思う。

産業観光課長 確かに突然感があると思う。経緯としては、このサーフィン大会は、もともとは町

と関わりのない人たちが集まって大会を開いて運営していたが、網代浜海岸の波はサーフィンにいいと評判があったこともあり、にぎわい創出に繋げるために町が補助する形で町の大会が始まったというふうに聞いている。

ただ、費用に対しての入込客数 300 人が多いか少ないかは主観によると思うが、5 年度に初めて大会を開催出来て、6 年度にはキッチンカーなどのいろいろなものを販売するマルシェの同時開催を始めて、7 年度はステージイベントも開催した。

結果、7 年度は人数の重複もあるが入込客はサーフィン側で 654 名。マルシェは約 500 名、合わせて 1100 名となり、着実に人数が増えていることは間違いない。

企業からの協賛金も 5 年度が約 20 万円、6 年度 30 万円、7 年度 35 万円と増額しており、町の補助金交付額も 5 年度が約 300 万円、6 年度が 260 万円弱、7 年度は見込みだが 230 万円弱で、30 万円ずつ額を減らしている。何とか補助金を下げ、来場者数を増やすことを目指している。

また、7 年度は国交省の補助金を活用したが、今後も使えるものは使っていきたい。

委員 観光のためにチャレンジすることは悪いことではないと思うし、産業観光課が努力していることが伝わればもう少し理解も得られる気がする。

確かに他の事業でもそうだが、特化して不満が出るのは一部仕方ないと思う。補助事業の中身をしっかり調べて行うのであれば、私的には応援したい。

委員 先回の会議では見直しの上継続ではなく、見直して駄目だった場合は廃止だったと思う。来たい、見てみたいという声が 5 年間増えていないのに何故税金を使うのか、無駄遣いではないのか。親だったら、夏祭りは監視の目もあり子どもたちも楽しめるが、サーフンは危ないので行かせられない。

クラウドファンディングも集まってないのにまだ続けるのか。町民の多くはこの事業を知らないと思う。町民として、委員として思うのはあまりにも認知度が低く、廃止の意見は当時と変わらない。

産業観光課長 入込客数が着実に増加していることは決して嘘ではない。委員の実感としては、町民はほとんど認知していないとのことなので、町として町民に楽しんでもらう、サーフィンを通じていろいろな人に来てもらう、そういう側面もあるので両方のバランスを見ながらやっていきたい。

ただ、私から補助金が減っている、協賛金が増えている、来場者数が増えているとか、言ったがどこが合格ラインかは皆さんそれぞれで、それが合格ラインに達していないと判断されるのであれば、私見だが、いつまでも後生大事にあるものではないと思っているので、サーフィン大会は今年で 3 回目、ある意味お試しを今やっているところで、マルシェやいろいろな取組により今後どう伸びていくか見ていただきたい。

委員 新しい事業を応援したいと思うので、厳しい意見がある補助金だということを常に頭に入れながら進めてもらいたい。

産業観光課長 底辺の拡大を図りたいということで、サーフィン体験会とかを同時開催し SNS などを使って情報配信している。しかし、探さないとヒットしないという面もあるので、情報をうまく発信して、町民に知ってもらおうとか、マルシェだったら行ってみようかと思ってもらえるようにやっていきたい。

委員長 イベントによる地域活性化には 2 種類あると思う。

1 種類目は、まず住民が喜び、それを外に広げていくやり方。もう 1 種類は、地元民は気づかないが、よそ者が素晴らしいということで、実はうちの町にもこんないいものがあったのかって、外から攻めてくる。内から攻めていくものと、外からのものと、その 2 種類がある。

夏祭りは、内からまず町民が喜び、それをよそにも広げていく。一方でサーフィン大会は、町外、日本全国から新潟県の聖籠町海岸っていいんだってことで外から攻めてくる。

そういう 2 種類。やはりそれぞれの特性に合ったやり方が必要で、特に外から攻めていく場合は、やはり町民は何でサーフィンなんだ、ということを今一度整理して説明する必要がある。

これは、実行委員会の方でホームページなどで既にやっていると言うかも知れないが、もっと分かりやすくすることが大事。これが意見 1。

次に協賛金が増えている、町からの補助金が減っている、いいことだと思う。しかし、町が何故出さなければならないのか非常に議論がある、また批判的な意見があるのは今日の会議だけでも明白である。やはり一つのイベントに町が税金を使うというのは非常にハードル高い。よほどのものがない限りは、なかなか理解がられない。先ほどお試し期間という話が出たが、私は 3 年でもいいが期限を区切って設定した目標に達しなければ撤収するというやり方があるってしかるべきというのが提案。これが意見 2。

最後に、公的補助金依存体質からの脱却。今は公的補助金がメインで民間の協賛金は少ない、その収支を逆転させる。これが意見 3。

続けていくためにはそういうふうに行政指導していかなければならない。

委員 サーフィン大会は歩いて行ける位近いが、周りからも一回も行ったという声を聞かない。

サーフィン大会自体はいいが、そこまで拘るのが分からない。県外から訪れてもらって、聖籠町はいいところだ、海が凄く綺麗、そういう目線でもいいと思うが、このサーフィン大会でそれが伝わるのか。一部の凄いサーフィン好きだけではもったいない気がする。PRの仕方をもっと考えてもらいたい。

議事(2)前回ヒアリングまでの意見集約について(14 事業)

○ 事務局から補助金等評価調書を説明 (No. 1～No. 5)

委員 小中学校相互交流派遣事業補助金でハルビン訪問の件だが、今回、中国側から中止するという話があったとのことだが、個人的意見としてこの機会に今後のやり方を協議して、今後はリモートとかでやれば、コストも下がるし、異文化交流の参加人数も増えて、目的が達成できるのでは。

委員長 この補助金の対応については、国際問題も含めて難しい面があるので、調書の文言を私と事務局で詰めさせていただきたい。

○ 事務局から補助金等評価調書を説明 (No. 6～No. 10)

(意見無し)

○ 事務局から補助金等評価調書を説明 (No. 11～No. 14)

(意見無し)

(文責：事務局。事後修正する場合があります。)